

一般質問通告書

【第70回定例会】

多可町議会議長 河崎 一 様
 多可町議会議員 吉田 政義



受 領 日	番号
平成28年 6月 9日	9
午前・午後 8 時 40分	

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
高齢者の見守りはいかに	町 長

団塊の世代の多くが75歳以上になる「2025年問題」。後期高齢者が人口に占める割合は国、県ともに12%から18%に上がる。町としては、もっと高い数値になるでしょう。

町と西脇警察署は、高齢者を地域ぐるみで見守る「あんしんはーとねっと事業」を設立されておられます。郵便局や商店、医院、介護保険関係事業所など町内55事業所が協力し、認知症の恐れのある高齢者を見守り、行方不明者捜索に協力する。認知症の高齢者が増える中、住み慣れた地域で安心して暮らせるように事業の導入を決めた。協力事業所の社員らは、商品の配達時に郵便物などがたまっている、窓口の対応時に支払いをうまくできないなど、高齢者に異変がないか気を付ける。必要な時には、町地域包括支援センターか西脇署に相談する。行方不明者が発生した場合、西脇・多可防犯ネットのメールと防災無線で伝えられる情報を基に捜索に協力するとあります。今後、認知症の高齢者だけでなく、安否問題の必要な高齢者が増えることは目に見えています。西脇市では、高齢者世帯の見守りを委託する協定を宅配業者「ヤマト運輸」と締結されております。災害時の要援護者で65歳以上の一人暮らしか高齢者世帯を対象に、市からの啓発やお知らせの書面を月一回、ドライバーが手渡して近況を確認し、市に報告する。介護サービスを受けず、緊急通報装置を設置していない世帯のうち、希望世帯のみが対象。市内を担当する同社のドライバーが継続的に同じ世帯を訪問し、体調の変化を市に伝えるというものであります。小野市でも、「ヤマト運輸」と協定し、日常業務の中で、市民の安全や健康に注意を払い、異変に気付けば市に報告する。

多可町でも、認知症の高齢者だけでなく、安否問題の必要な高齢者にも広げてみるべきではないでしょうか。

2. 中町中学校の駐輪場からの動線を考えよ

教育長

中町中学校の駐輪場は校舎から非常に離れています。生徒は雨の日、合羽を着て自転車で通学します。しかし、駐輪場から校舎まで傘をさしていかなければなりません。傘の用意をしている生徒は少なく、濡れながら走っていきます。傘を持っていくことも、駐輪場に傘を置いておくことも難しい状態だと思います。加美中学校や八千代中学校も同様ですが、駐輪場と校舎の距離が短いと思います。

駐輪場から校舎まで屋根をつけるなり、何らかの方策を考えるべきだと思います。教育長の見解を求めます。